



「記念物めぐり—茨城県版—」(第7回)

ひたちなか市及びその周辺の記念物巡り

—東日本を代表する装飾古墳「虎塚古墳」を訪ねて—

日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第7回は、ひたちなか市に所在する国史跡虎塚古墳とその周辺を訪ねます。国史跡とは、日本国内の遺跡のうち、日本の歴史を正しく理解するうえで欠かせない学術的価値を持つ重要な史跡として指定し、保存を図って後世に引き継ぐ制度です。

虎塚古墳は、東日本を代表する彩色壁画古墳(装飾古墳)として知られています。また、近くには、先ごろ国史跡に指定された東日本最大の横穴墳墓「十五郎穴横穴墓群」等もあり、この地域は7世紀前後の東日本の社会を考えるうえで重要な地域となっています。

虎塚古墳 昭和49(1974)年1月23日 国史跡指定

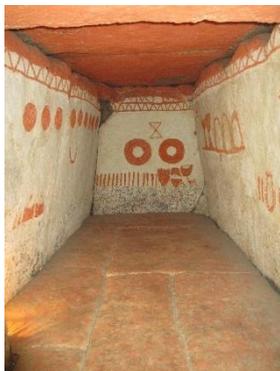
「虎塚古墳」は、ひたちなか市にある虎塚古墳群を構成する古墳の一つで、形状は前方後円墳です。虎塚古墳は国の史跡に指定され、出土品はひたちなか市指定の有形文化財に指定されています。

虎塚古墳(1号墳)の造られた時期は、7世紀前半頃と推定され、虎塚古墳は、虎塚古墳群、笠谷古墳群、十五郎穴横穴墓群が形成されている標高20m程度の台地の山林に位置しています。

虎塚古墳(1号墳)は、全長56.5m、後円部直径32.5m、後円部高さ5.7mの前方後円墳です。また、その他の特徴として前方部と後円部の高さはほぼ同じで、古墳を取り巻くように濠(周濠)が廻らされています。



虎塚古墳(1号墳)の全景



埋葬施設は後円部盛土内にあり、横穴式石室です。石室内部は、凝灰岩の壁面(奥壁と側壁)には白色粘土を塗り、その上に赤色顔料のベンガラ(第二酸化鉄)で幾何学模様や武器、武具等の紋様が描かれています。

石室内部からは、成人男子の遺骸一体と漆塗小太刀、毛抜型鉄製品、槍<sup>やりがんな</sup>、鉄板<sup>てつやじり</sup>などの副葬品が出土しました。

石室の観覧室は、科学調査(温度、湿度、微生物など)を日本で初めて実施し、調査結果に基づき設計されています。

石室内部(色彩壁画) 石室内部(色彩壁画)の一般公開は、春と秋に実施しています。

なお、近くには、埋蔵文化財調査センターがあり、石室内部の装飾壁画の復元や古代の人々の生活に使われた土器や、発掘された武器、武具などが展示されています。

十五郎穴横穴墓群 令和6(2024)年2月21日 国指定史跡

十五郎穴横穴墓群は、古墳時代末期から平安時代にかけて造られた墓です。十五郎穴横穴墓群のように台地の凝灰岩に横から穴を掘り、作られているものを横穴墓と言い、群集していることが多くあります。

十五郎穴横穴墓群は、「指<sup>さし</sup>洪支部」「館出支部」「笠谷支部」の三つの支部で構成されています。このうち館出に群集している34墓がこの度、国指定史跡に指定されました。

「十五郎穴」という名称は、曾我兄弟の十郎・五郎がここに隠れ住んでいたという、地元の伝説に基づいています。

虎塚古墳の近くには、虎塚古墳群、飯塚前古墳、三反田古墳、笠谷古墳群などがありますので、合わせて訪ねてみてください。

なお、ひたちなか市内には、関連する国指定史跡として「馬渡埴輪製作遺跡」(昭和44(1969)年8月5日国指定史跡)や、明治期の日本の製鉄業の端緒を開いたとされる「那珂湊反射炉」(茨城県指定史跡)もあります。

注:付図は、ひたちなか海浜鉄道湊線「中根駅」をスターとゴールとするウオーキングコース図となっています。



十五郎穴横穴墓群

# 地理院地図

GSI Maps

## 虎塚古墳とその周辺の古墳群を巡るウォーキング

— 色彩豊かな「虎塚古墳」の石室(彩色壁画)を訪ねて —

約 7.0 km      3 時間

